



たが、私はそれは正しいと思います。

「ウチの」というのを保つていくために今更「ウチの」という心構えが必要か。今の時代がどうい歴史状況にあるか。私は歴史を勉強してはいますが日本史の中で今の時代にびつたり合う時代はありません。ただ幾つかの時代が複合していると思えます。一つはバブルの後の戦国時代。戦国時代の風潮は下克上です。文字通り下が上を超えたり勝つたりという意味です。何によって超えたり勝つたりしているかと言え、これは言うまでもなく、能力主義、実績主義です。数字が大きいモノサシになっている。否定しようのない事実です。こういうものが結局無秩序に行われると戦国時代がそうであったように室町期までに培ってきた日本人のルールとか倫理観とかマニユアルとか皆潰れてしまふ。今の時代は有るにも拘らずマスコミ論調が否定するから言い難いわけです。「ウチは日本式経営の良いところを残している」と胸を張って言えないような風潮がまかり通っている。実際には皆様にしておそらく「ウチの」という言葉は始終お使いになっていると思えます。これは大事です。

もう一つは幕末開国時代かなと思います。第二の戦国時代でありまして、この時に幕府の高官や学識経験者と言われる人が大きな過ちを犯しました。国際語を勘違いして。一六三九年寛永十六年は鎖国しました。長崎港だけは開けておいて、朝鮮、中国、オランダとは交流しました。そのために日本の有識者たち佐久間象山なり勝海舟なり横井小楠、福沢諭吉とか色々な人がいますが身に付けた外国語は全部オランダ語なんです。これは違うのではないかと気付いたのが福沢諭吉です。幕府がアメリカと結んだ通商条約の批准を行うためにワシントンに使いを送る。これが決まります。この時に別コースで日本人の操る船が見事に太平洋を乗り切ったことを実証しようとした福沢諭吉というオランダで作られた船を使って、艦長は勝海舟にしようとした。勝はオランダ学者で英語の工の字も知らない。今更ABCもあるまい。通訳を雇えばよいと雇ったのが福沢諭吉と土佐の漁民でアメリカに漂流したことがあるジョン中浜万次郎の二人です。諭吉とジョン万は船中で仲良くあってサンフランシスコに上陸して日本に帰る時に、何か土産を買おうと金を合わせて買ったのがウエブスターの大英辞典です。福沢さんは慶應義塾という学校を作ります。英語教育に切り替えました。その時にこのウエブスターが大変役に立ち、同時に明治以後の日本人の英語教育に非常に役立ちました。

幕末における日本人の指導者層を含めて全体にグローバリズムに欠けていた。グローバルな発想、目の付けどころが無かった。今これをもっと更に広げてグローバルイズムと言いつけた人がいます。

す。前の大分県知事だった平松守彦さん。有名な一村一品運動を起しました。一地域で有名産品をそれぞれ一つずつ作って下さいという産業振興に引っかけたわけですが、「グローバルな感覚を忘れて、ナショナルな問題意識を持ちそしてローカルに経営をして下さい。」姫島で車えびを育てるのも山の中で椎茸を培養するにもまず国際感覚をもち、日本の国内問題がどういものがあるか、それが自分の店にどうい波が被ってくるか、その時に自分はどう生きていくか。ローカルというのは単なる地方というより経営体自身を言っていると思えます。これは大事を指摘だと思えます。そのグローバルイズムを具体化してリーダーの条件にするには何を考えたら良いか。六つあります。一つは先を見る力を養うこと。二つはそのために情報を集めること。集めた情報は全部が正しいとは限りません。従って分析する力が必要。今の時代は問題点を取り出して解決策は一つではないのです。複数の選択肢の中でどれかを選ぶというのには決断力が必要。判断、中止、見切り発車を要する力。決めたことは行い力が必要で実行力。そしてこれらの五つは人間の生身の営みですから健康でなければいけない。心身ともに堅実、健全であるという体力が必要になる。ところがこれだけではまだ駄目だ。今の世の中一丁によって支配されている。大人まで浸透してしまつた。先見力、情報力、判断力、決断力の寸前の選択肢の設定までは電子機器がやってくれる。人間がそこに費やしてきたエネルギーと時間が自分のものになる。可処分対象になる。他人のため、客のため、世の中の為に使わない。自分のために使つてしまふ。自分の利権形成能力が異常に高くなって必要な物とかサービスを見る時のモノサシが自分勝手なものになってしまふ。

本体では勝負できないです。同じような品物では駄目なんです。ここに先ほどの福井さんが言ったプラスαという付加価値が必要になってくる。付加価値は他との違い、差異ですね。結局皆様の言葉を使えばC、コーポレートアイデンティティーになる。本体は共通するけれど、他では絶対に出せない付加価値を提供しているのは自分の工場だけだということ。ということは何を求めているのかといえ「ナラ」と言わせることです。「この製甲ナラ」「鍔金ナラ」「ナラ」というのは、「らしさ」を持つということです。C、というものは、会社のマークとか旗のデザイン彩りもありませんがそれはシンボルです。本當のCは自分の店できれい出せない「らしさ」を言う。それは顧客との間に強力な信頼関係を築くものなのだと思います。

同じことが人間にも言えます。先ほど申し上げた、先見力、情報力、判断力、決断力、実行力、体力というのは今の時代におけるリーダーの必要条件の本体であつてまだ他にプラスαが必要にならなければならない。

「プラスαは何か。結局「ナラ」と言わせる「らしさ」のことです。中国の言葉を使えば風度と言います。今日お見えの皆様はこの風度が高くていらつしやる。「ウチの社長ナラ余計なことと言わないが、廊下を歩いているときの後姿からも学ぶものがある」とか「ウチの工場長が言うことナラ、口はうるさいけれども製品に対する愛情とそれを作る俺達のことを思つてガミガミ言つていもんだ。だから信じとこうなる。休日出勤命じられても喜んで出勤する」ところなる。これが日本式経営の良さ、人生意気に感ずるあうんの呼吸。「阿」は吐く息、「呼」は吸う息。呼吸がピッタリ合う。更に以心伝心、心を以つて心に伝え合う。「説明するさい。ジジイの代から付き合つてるんだから、理屈言わず契約書持つてこい。ハンコ押ししてやるから。」こんなことまであります。これは「大事チの」といふ結束力をもって良い物を作つて提供しているから客は心配しない。これが日本式経営の良さと思えます。

信玄・謙信

これを歴史上の人物に当て嵌めると、上杉謙信や武田信玄は先ほど申し上げた六条件の六番目の体力がありませんでした。健康という点では死因は肺結核乃至は風土病である筈吹き病と言われています。今も信玄堤や龍王堤が残つていますが、洪水防止の河川改修工事が得意でした。笛吹き川に入つて工事の指揮をとつたら、石の下から毒をもつた虫が出てきた。それが足に噛み付いて毒が回つた。その症状が肺結核によく似ていたと言説がありますが、通説は肺結核です。上杉謙信は四十九歳で死にました。死因は脳出血。彼は女性恐怖症なのです。結局マサーコンプレックスかもしれない。お母さんが優れた人でお姉さんが大変良い人でした。結局伴侶にしたのは日本酒だ。酒の相手をしてきたのが来年の大河ドラマの主人公の直江山城守兼次です。子供の時から非常に可愛がつていました。朝起きると「ナオちゃんいらないかな」「控えております。殿をお守りするため宿直致しました」「ご苦労だつたな。中へ入れ。一杯いこうか」朝からです。はつちと言えはアル中です。結局上杉謙信はアル中で脳出血で倒れて五日間意識不明、相続人を誰と決めないでこの世へ帰つた。だから後で問題が起つた。

川中島の合戦は肺病とアル中の喧嘩なんです。「名將に学ばず人間学」という本で二人褒め称えているじゃないか。二人は名將じゃないのかと言われそうですが、名將なんてね。それは謙信と信玄の為に川中島で命を捨てても惜しくないとい

う、軍団の末端までそういう気持ちを持つていた。この大將の為ナラ。この二人の風度が非常に高かつた。武田信玄にとつて風度というのは単なる本人の発するオーラ、雰囲気だけだつたのかといふと必ずしもそうではありません。リーダーシップに絡みます。「人は城、人は石垣、人は堀」下の句がありまして「情けは味方、仇は敵」と言つている。下の句から上の句を類推解釈しますから、信玄は部下に大変暖かい気持ちを持つていた。部下の存在意義を城や石垣に例えて、しっかりと頼むぞと言つていたと言われています。私は違う説を持つています。信玄の経営していた国を甲斐と申しました。大化の改新後、律令という法律ができて、全国を六十八カ国に分断します。一国に二文字による国名を付けました。甲斐というのとはもと山崎からきている。山だらけ、谷だらけの峡(カ)から甲斐の国にきた「さ」がはいります。江戸末期までは日本の税は所得とが不動産の固定資産ではなく米だつた。山だらけの国では米の生産があまりない。従つて生産性の低い貧しい国と言わざるを得ない。こんな貧しい国を経営していくトツプリーダーがこんな甘い構造で部下を管理したらすぐに潰れてしまひます。もっと厳しい言葉「分権と責任」、トツプの持つてくる権限の一部を信頼できる幹部に委ねることが分権です。武田信玄はその分権した仕事について、失敗したときの責任は俺と同じ物があるぞと厳しいので、委ねられた仕事については幹部というのには俺の一身であり一かけらであるという意識を持つて。他人ではない。これが「人は城、人は石垣、人は堀」なのです。彼は二十四人の幹部を抱えていました。毎朝戦略会議を開く。夫々が情報を出して、先ほどのグローバルイズムみたいなものです。武田企業今日一日如何に生きざるべきか論議をする。大所を固める。それが合意されたら夫々二十四の支店に戻つて戦術を立てる。戦略の二四分の二をどう表現するか決めるときに末端の従業員も参加させる。その時に朝の戦略会議の情報も共有するよつと。

日本で最初のフレックスタイムを取り入れたのも武田信玄です。「個人的な悩みや屈託ごとを職場に持ち込むな。解決してから出てこい。」戦国時代ですから三交代です。どこかに出勤時間を設定すればよい。「お前たちを信頼しているよ」とこういうことです。こういうことが彼の風度を形作つていた。

上杉謙信は理念、ポリシーが先行していますから、彼自身が領土拡大とか色々な意味で戦争をしたことではないのです。常に義を重んじる。彼の所に逃げ込んできた長野県内の武将たちの領土を武田信玄が奪つたため、それを取り返すために立ち上がった。義のためにということ部下たちもモラルをアップしていた。

武田信玄は先ほど申し上げた六条件の六番目の体力がありませんでした。健康という点では死因は肺結核乃至は風土病である筈吹き病と言われています。今も信玄堤や龍王堤が残つていますが、洪水防止の河川改修工事が得意でした。笛吹き川に入つて工事の指揮をとつたら、石の下から毒をもつた虫が出てきた。それが足に噛み付いて毒が回つた。その症状が肺結核によく似ていたと言説がありますが、通説は肺結核です。上杉謙信は四十九歳で死にました。死因は脳出血。彼は女性恐怖症なのです。結局マサーコンプレックスかもしれない。お母さんが優れた人でお姉さんが大変良い人でした。結局伴侶にしたのは日本酒だ。酒の相手をしてきたのが来年の大河ドラマの主人公の直江山城守兼次です。子供の時から非常に可愛がつていました。朝起きると「ナオちゃんいらないかな」「控えております。殿をお守りするため宿直致しました」「ご苦労だつたな。中へ入れ。一杯いこうか」朝からです。はつちと言えはアル中です。結局上杉謙信はアル中で脳出血で倒れて五日間意識不明、相続人を誰と決めないでこの世へ帰つた。だから後で問題が起つた。

リーダーの役割

上杉鷹山という人がいました。江戸中期の名改革者として有名です。この人は「不況の時こそ人づくりが大切である」と言っていて学校を作りまし



部下を一本一本の苗木に見立てて。五人部下がいたら五本の木。種類が色々違つてしまふ。相手が何の木なのか確定をしない。木によって肥料の与え方から違つてしまふ。生命力の強いのは

例えは私が都庁で係長になったのは三十歳の時で国内健康保険の企画係長になったのですが五人部下がいたのです。この時にリーダーとしてこの指とまれ」と言つて五人飛びついてくれま

上杉鷹山

上杉鷹山は養子藩主です。元々の出は宮崎県高鍋です。十七歳の時、山形米沢に財政再建のために鑑子に貰つた。上杉家というのには謙信が主人です。「越山あわせ得たり能州の景」と詩に詠

鷹山がこれと言つたのはこの通りやってみなさいということではなかつた。「リーダーは三つの要件を部下に示せ」ということ。一つは目的をし

鷹山の改革というのは単にバランスシートに生じている赤字をゼロにすれば良いという消極性ではない。この国の人々も元禄バブル時代の悪し

結果的にこれが功を奏します。一時的なものですから武士の籍は置いてある。給料も米沢城から払つていた。ある程度赤字が克服したらまた武



代表者変更

株式会社弘機商会

旧代表者 坪根 五久代  
 新代表者 高原 隆一

計 報

早崎 金作氏

有限会社早崎製作所社長早崎吉春氏ご尊父はご逝去されました。謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

業 務 報 告

一月八日

1新春講演会

講師 京都大学教授 中西輝政氏  
 テーマ 二〇〇八年 日本と世界の展望

2新春賀詞交歓会

二月十二日

正副会長会議及び定例経営サロン(木鶏会)  
 1平成十九年度決算報告について  
 平成二〇年度予算案について  
 全員異議なくこれを諒承

2木鶏会総会開催日並びに講演会講師について

開催日 平成二〇年三月十一日(火)  
 会場 ア・ペア  
 講師 ジャーナリスト 大高未貴氏  
 テーマ ちよつと不思議な話 日本人の背骨と魂

3定例経営サロン(木鶏会)

大谷文雄氏担当

三月十一日

1木鶏会総会

2講演会

3懇談懇親会

四月八日

定例経営サロン(木鶏会)

田村知之氏担当

四月十一日

理事会

1定款条文変更の件

全員異議なく承認

2役員変更の件

全員異議なく承認

五月八日

常任理事会

1平成十九年度事業報告・決算報告・剰余金処分案承認の件

全員異議なく承認

2平成二〇年度事業計画案・収支予算案承認の件

全員異議なく承認

3平成二〇年度借入最高限度額決定の件

一組合員に対する貸付最高限度額決定の件、手数料最高限度額決定の件

全員異議なく承認

4通常総会、講演会開催の件

開催日 平成二〇年五月二〇(火)

会場 ア・ペア

5講演会

講師 作家 童門冬二氏

テーマ 歴史に学ぶリーダーの条件

理事会

議題は常任理事会上程のもの

全員異議なくこれを承認

五月十三日



工場見学

定例経営サロン(木鶏会)

飯室 肇氏・高原隆一氏担当

勉強会

講師 税理士 柞淵祥志氏

テーマ 役員給与等の取扱いについて

五月二〇日

1平成十九年度通常総会

可決事項全員異議なく承認

2講演会

3懇談懇親会

六月七・八日

青年部懇親旅行開催(木鶏会)

場所 修善寺

六月十日

正副会長会議及び定例経営サロン(木鶏会)

1工場見学について

開催日 平成二〇年七月八日(火)

見学先 関東自動車工業(株)

2納涼経営サロン

会場 マンジャベッシュ(クレマチス)の丘

3定例経営サロン

勉強会

講師 富士フィルム(株)CSR推進部

主任技師 三好孝仁氏

テーマ 地球温暖化と省エネについて

七月八日

1工場見学

2納涼サロン

七月十六・十七日

定期健康診断の巡回

九月十一日

定例経営サロン(木鶏会)

講演会

講師 愛知淑徳大学教授 真田幸光氏

テーマ 目指せ、

真の物づくり大国・日本

十月十四日

正副会長会議及び定例経営サロン(木鶏会)

1忘年会について

開催日 平成二十年十二月九日(火)

場所 牡丹

2新春講演会について

開催日 平成二十一年二月十三日(火)

場所 ア・ペア

講師 京都大学教授 中西輝政氏

テーマ 激動する世界と日本存立の条件

3定例経営サロン

勉強会

忘年会



忘 年 会

講師 アビームコンサルティング(株)

統括責任者 原誠氏

テーマ 私の会った経営者たち

十一月十一日

定例経営サロン(木鶏会)

海老名信緒氏担当

十一月十六日・十七日

親睦旅行開催

場所 那須高原

十二月二十一日

十五年以上勤続優良従業員に対して区長から感謝状贈呈(社名五十音順 敬称略)

(株)弘機商会社員

川原政人

(株)気球製作所

深野羊子、浅石恵美子

太産工業(株)

佐藤秋子、宮内 繁、鈴木フチヨ、

佐々木京子、北原澄江、田口陽一

(株)東京精密器具製作所

秋山久史、八田建一、角 義徳

十二月九日

忘年会

十二月十日

常任理事会

六十周年記念行事の件



年末・年始事務取扱のお知らせ

年末・年始の組合事務局の事務取扱日は左記の通りとさせていただきます。

記

年末 十二月二六日(金)まで

年始 一月五日(月)から

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合

(五十音順)

尼寺空圧工業株式会社

尼 寺 実

株式会社新井久四郎鉄工所

新 井 陽 一

イーター電機工業株式会社

北 川 浩

株式会社エヌシーネットワーク

内 原 康 雄

株式会社エヌエスシー

村 岡 章 夫

荏原工業株式会社

長 井 俊 樹

エビノ電化工業株式会社

海老名 信 緒

株式会社大谷造機所

大 谷 文 雄

岡田鋳金株式会社

増 田 道 造

金勝産業株式会社

金 勝 恒 男

有限会社川村製作所

川 村 有 史

株式会社気球製作所

豊 間 茂

株式会社清川製作所

川 瀬 純 一

株式会社極東精機製作所

鈴 木 健 一

京浜技研工業株式会社

山 下 政 和

有限会社京浜鑄造所

神 道 晃

有限会社京浜プレス工業所

齊 藤 喜久雄

株式会社弘機商会

高 原 隆 一

株式会社小林製作所

小 林 元 見

佐々木発條株式会社

佐々木 毅 彦

株式会社サタコ

青 沼 三 郎

産業医・医学博士

佐 藤 精 一

合資会社沢海製作所

沢 海 康 夫

株式会社三栄精機工業

今 田 謙

株式会社三協アルマイト

岩 崎 登喜雄

株式会社三和産業

河 本 正 吉

杉谷金属工業株式会社

杉 谷 宗 弘

有限会社須藤製作所

須 藤 敏 男

第一金属工業株式会社

菅 谷 義 弘

大産工業株式会社

千 葉 泰 常

大志工業株式会社

沖 山 裕 夫

謹 賀 新 年

蒲田工業協同組合

(五十音順)

相談役 西ヶ谷 勝美

理事長 増田 道造

副理事長 大谷 文雄

副理事長 荻野 茂

専務理事 小林 章彦

常任理事 須藤 敏男

常任理事 長井 俊樹

理事 新井 陽一

理事 岩崎 登喜雄

理事 海老名 信緒

理事 加藤 進弘

理事 斉藤 喜久雄

理事 菅谷 義弘

理事 竹内 榮多

理事 田村 知之

理事 鳥海 保男

理事 野口 広

理事 望月 直人

監事 飯室 肇

監事 鈴木 健一

監事 高原 隆一

事務局長 沢登 正彰

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合

(五十音順)

大進精機株式会社

宮田 実

大成工業株式会社

鎮目 哲郎

株式会社瀧口製作所

瀧口 利彦

株式会社タムラエンジニア

田村 知之

株式会社タンケンシルセーコウ

渡邊 敏廣

株式会社中央テクニカ

木戸 克子

ティヴィバルブ株式会社

竹内 榮多

株式会社寺岡精工

寺岡 和治

寺田産業合名会社

寺田 叔弘

同和発條株式会社

川嶋 治彦

東亜株式会社

小柳 隆

株式会社東京精密器具製作所

西ヶ谷 好隆

株式会社東京ハードフェイシング

吉田 裕二

有限会社巴精工所

武市 孝雄

株式会社鳥海製作所

鳥海 保男

株式会社中谷機械製作所

中谷 和彦

永森電機株式会社

永森 忠臣

南旺工業株式会社

林 隆史

株式会社日産電機

中村 國男

株式会社日章機械

小林 章彦

日本チエン・ギヤ

無段変速機株式会社

加藤 進弘

株式会社羽田パイプ製造所

野口 広

有限会社早崎製作所

早崎 吉春

深尾精機株式会社

中井 富士夫

富士馬鋼業株式会社

宮川 正雄

有限会社富士精機製作所

荻野 茂

株式会社富士テクノマシン

飯室 肇

株式会社藤原製作所

藤原 徳一

株式会社文化精工

桑原 久直

有限会社豊栄精機製作所

澁澤 達哉

株式会社マコメ研究所

植村 邦哉

株式会社マサオプレス

宮澤 章

有限会社松原精機製作所

松原 栄一

株式会社松原製作所

松原 一喜

三津浜工業株式会社

富岡 恵子

有限会社望月塗工研究所

望月 直人

有限会社師岡飯金製作所

師岡 正雄

株式会社ユーアイテック

打田 正隆

株式会社ユタカ製作所

谷野 利夫

株式会社ラビット

コマースサービス

河原 清志



HACCIP 高度化基準認定工場  
となんのお料理をどうぞ

都南工業給食協同組合

大田区南六郷三一十五ー一

TEL 三七三二一七四五(代)